

協働事業提案募集採択事業の実施状況 21

事業名

低炭素グリーン生活推進モデルプロジェクト

事業の概要

循環型社会、低炭素社会、自然共生社会を統合した持続可能な社会の構築など、都市・地域政策と一体となった地域型まちづくり貢献活動を行うことを目的とし、「都市型低炭素市民農業モデル」をつくり耕作等の情報提供・交換を図ることで地域振興に役立つことができるのではないかと考え、ハッカとキビの栽培やその利活用について、様々な見地から具体的な取組や実験を行った。

具体的な事業としては、キビの枕と食品（菓子、麺、酒類）及びその研究、ハッカ製品（ハッカ抽出品やそれを使った製品など）とハッカ苗などの研究を中心に以下のとおり実施した。

- (1) キビ・ハッカに関する専門家を招いての講座の開催
(広く一般の方に参加してもらうことでキビとハッカを認知していただき、協力者を募る目的で開催した。)
- (2) キビ・ハッカに特化した新商品開発等の取組
(作物の消費拡大が耕作地の拡大の前提条件であると考え、新たな消費拡大を模索するために、試作品開発及び研究を行った。)
- (3) キビ・ハッカ栽培の新手法の研究
(農業経験が少ない、または全くない方々でも簡単に栽培できれば、高度な研修や高価な機械をあまり必要とせず、耕作放棄地の解消にもつながるとの想定から研究を行った。)

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
元倉敷未来計画	・事業の広報、実施準備、実施 ・個々の事業の進行管理
備中県民局	・具体的な企画・実施に必要な支援・機関との連絡調整

実施状況

- (1) キビ・ハッカに関する講座の開催
【第1回講座（ハッカ関係）】
 - ・日 時：平成22年8月27日（金） 19:00～
 - ・場 所：倉敷公民館第2会議室
 - ・参加者：25名

- ・ 講師：土岐隆信（(株)エバルス顧問、前岡山大学薬学部非常勤講師）
演題「ハッカについて」

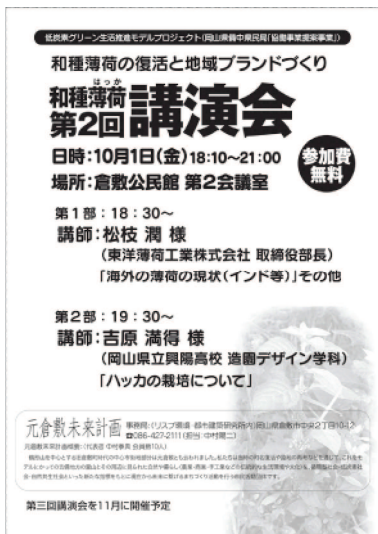


(内容) かつての日本は世界最大のハッカ輸出国であること、岡山県は日本第2位の産出量を誇っていたこと、現在は中国、インド、アフリカが主要産出国であることを解説。

第1回の募集チラシ

【第2回講座（ハッカ関係）】

- ・ 日 時：平成22年10月1日(金) 18:25～
- ・ 場 所：倉敷公民館第2会議室
- ・ 参加者：15名
- ・ 講師：松枝潤（(株)東洋薄荷工業 取締役部長）
演題「海外の薄荷の現状（インド等）について」
吉原満得（岡山県立興陽高校造園デザイン学科 教諭）
演題「ハッカの栽培について」



(内容) 松枝氏：中国、インド方面での栽培の現状と気候の違いを利用した収穫の状況について解説

吉原氏：ミント類の栽培方法（肥料の施し方）等について解説

第2回の募集チラシ



第2回講座の様子

【第3回講座（キビ関係）】

- ・日 時：平成23年 2月20日（日） 14:30～
- ・場 所：倉敷物語館第2会議室
- ・参加者：30名
- ・講 師：坂本守行（中医学研究家、雑穀博士）
演題「吉備の未来食・・・黍を生かす」



(内容) 雑穀（粟、ヒエ、ハト麦等）の歴史や栄養素、特に黍の特徴や栄養分の効用などを紹介。また栽培に関する現状と課題を解説。（連作障害や鳥害への対応等）

第3回の募集チラシ



第3回講座の様子

(2) キビ・ハッカの新商品開発等の取組

<キビを利用した試作品>

- キビの夢枕の試作（H22. 9. 30完成）
 - * 大人用枕 (1, 320g:350×550)
 - * 子ども用枕 (712g:300×450)
 - * 乳児用枕 (177g)



完成した試作品（大人用）



内部のキビ殻

○ キビ麵の試作 (H22. 10. 1完成)

うどんをベースに、収穫できたキビを混ぜる割合を変えて試作した。

キビの割合	20%	50%	80%
延ばし工程	支障なく麵の形となった。	どうにか麵となったが、綿生地を折りたたむ時点で切れる。	練る段階で玉にならず、麵に整えることは難しい。
試食	色も味も、十分に「キビ」が主張されており、美味しい。	キビの主張が強く、蕎麦つゆ程度では合わない。	(麵の時点で未完成なため試食せず)

○ キビ酒の試作 (H22. 11. 9 三光正宗に委託)

三光正宗と協働する中で、「みりん」にキビをつけ込んではどうかとの提案を受け、試作を行った。



左がキビ焼酎、中がキビみりん

<ハッカを利用した試作品>

○ ハッカカクテルの試作 (H22. 9. 10完成)

ハッカ焼酎をベースに、バーテンダーに依頼したところ、ハッカ独特の爽快感のあるカクテルが完成。爽快感が強すぎるため、ハッカから直接香りを抽出する方式で第2弾を作成中。

○ ハッカソフトクリーム of 試作 (H22. 10. 18完了)

ソフトクリームにハッカ水を霧吹きで吹き付ける方法で作成。イベントで試用したところ、好評だった。

○ ハッカ搾油器の試作 (H22. 12. 18完了)



蒸留装置 (全景)



抽出口

<ハッカの蒸留実験>

栽培したハッカを乾燥させ、蒸留実験を行った。(H23. 1. 15)



乾燥させたハッカ



蒸留したハッカ水の様子 (2.5リットルを採取)

(3) キビ・ハッカの栽培、耕作関係

○倉敷市川入地内のほか4箇所にて栽培を実施



草刈り開始前の耕作放棄地



草の間にキビ



種まき後1週間



発芽後1ヶ月



発芽後4ヶ月 (刈り取り直前)

《その他（試作品発表イベント）の開催》

- ・ 日 時：平成23年 2月20日（日）
- ・ 場 所：倉敷市阿知 2丁目広場



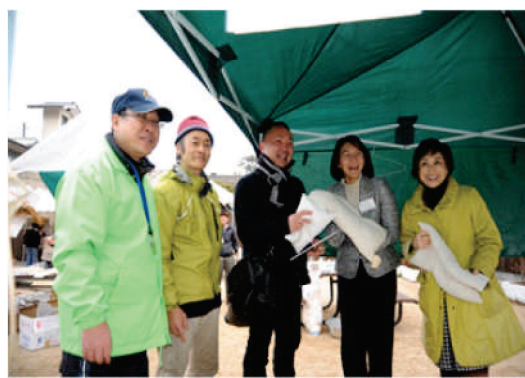
会場風景



キビ餅つき



キビ菓子試作品



キビの夢枕試作品

成果・効果

- ・ 講座の開催、試作品開発を通じ、この事業に対する支援者が多く現れ、耕作放棄地解消の一助となる可能性が出てきた。
- ・ 当初、想定していなかった企業や大学と協働できたため、専門的、実務的な観点から所期の目的を上回る成果を得、更なる商品開発など今後の展開に深まりができた。